

第16回 やろ舞い大祭

大口町NPO登録団体やろ舞いプロジェクト



▲やろ舞い横丁

大口町民会館第一駐車場で「やろ舞い大祭」が盛大に催され、参加チームの息の合った素晴らしい演舞で会場は大いに盛り上がりました。

夜のフィナーレの総踊りでは、ライトアップされた舞台から観客席まで大きな踊りの輪が広がり、最後まで観客を魅了しました。

また、今年も姉妹都市松江市から南中ソーラン踊り隊絆、松江民謡連竹内松子社中が参加し一緒に祭りを盛り上げてくれました。

祭りのもう一つのお楽しみ「やろ舞い横丁・食お舞い横丁」に、まちづくり団体などが出展し、大勢の人で賑わいました。

9/9
土

体験学習 危険予知トレーニング

大口町子ども会連絡協議会



第2回 大口町子ども会連絡協議会主催のKYT（危険予知トレーニング）研修会が開催され、災害時の炊出し実習をおこないました。

子どもたちはスーパーで買い出しをし、保護者が見守る中、不慣れな手つきで野菜を切り、班の仲間と協力しながら豚汁やハイゼックス（災害時の炊飯袋）米を作りました。

野外炊事をおとして、危険予知について学びました。

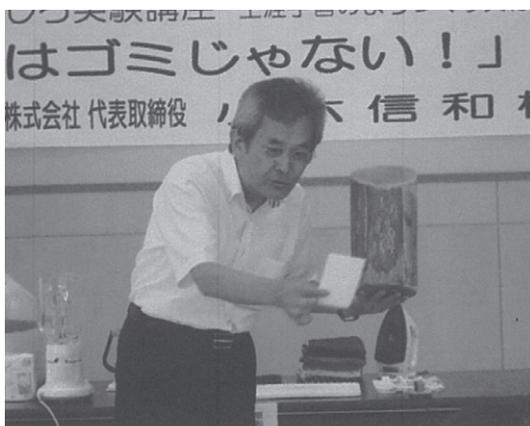
9/2
土

理科おもしろ実験講座

特別教室

大口中学校

8/6
日



生涯学習のまちづくり実行委員会主催の講演会「紙はゴミじゃない！ コロケ先生の古紙リサイクル教室」が開催されました。

講師は昨年度の学校の課題図書『コロケ先生の情熱―古紙リサイクル授業』の明和製紙原料株小六信和さん（コロケ先生）。全国の小中学校などへ訪問し、古紙リサイクルの大切さを教える講演活動をされています。

木を切って紙を作るのではなく、紙を紙として再利用すれば、地球にやさしいリサイクルになることを教えてくださいました。



▲「大工さん」カンナを使って木材を薄く削って仕上げる体験をする子どもたち



チャレンジお仕事inもりもりタウン2017

NPO法人 子どもと文化の森

『チャレンジお仕事inもりもりタウン2017』が開催され、8月24日(休)から26日(土)の3日間で約600人の子どもたちで賑わいました。もりもりタウンは、子どもたちがけが市民になれる遊びと体験のまち。働いてお給料(ダツシユ)をもらい、買い物やゲームを楽しみます。子どもたちは働くことの楽しさなど、社会の仕組みを学びます。今年もさまざまな職業をもつ大人がお店を開き、子どもたちがお仕事体験をしました。

大口町平和祈念式



町民会館

町民会館で大口町平和祈念式がこなわれました。

鈴木町長は「大口町でも多くの方が戦争の犠牲者になりました。平和を願う想いを中学生のみなさんが次世代に伝えてほしい」と、あいさつされました。

広島派遣団の中学2年生12名が被爆者から聞いた話や、広島平和記念式典に参列し感じたことなどをスクリーンを使って報告し、生徒代表が力強く「私たちの平和宣言」をして閉会しました。

8/22
火

講演会・地区芸能発表会



憩いの四季 娯楽室

憩いの四季で、大口町老人クラブ連合会主催の講演会・地区芸能発表会が開かれました。

午前の部では、歴史民俗資料館の西松学芸員から入鹿池の歴史についてお話しがあり、約150年前に入鹿池の堤防が決壊した「入鹿切れ」の災害の様子と今も町内に残る慰霊碑などについての話を聞きました。

午後は、地区芸能発表会がおこなわれました。

8/21
月